（仮称）医科大学院大学準備委員会（第３回）会議録

日　　時	【公　開】令和４年８月 31 日（水）午後３時 00 分から午後４時 10 分まで 【非公開】令和４年８月 31 日（水）午後４時 10 分から午後４時 30 分まで
場　　所	グランディエール　ブケトーカイ（４階　ワルツ）
出 席 者 職・氏名	出席委員：９名（敬称略） 田中一成、伊藤 裕、岩井一宏、浦野哲盟、木苗直秀、齋藤 昌一、 中西 勝則、宮地良樹、渡邉裕司 ※伊藤裕委員は web による参加 事務局 森副知事、山口県参与、八木健康福祉部長、後藤健康福祉部長代理、 田中健康福祉部参事、奈良健康福祉部参事、 大石健康福祉部政策管理局長、高須医療局長、赤堀健康局長　ほか
議　　題	１　（仮称）医科大学院大学が目指す方向性（基本理念・基本方針） ２　想定する研究分野 ３　附属病院の方向性
配付資料	議事次第 委員名簿 資料１　第２回準備委員会の概要 ① 第２回準備委員会　主な意見 ② クロスアポイントメント制度について ③ 専門医資格と学位の取得の両立について ④（仮称）医科大学院大学準備委員会の進め方（案） 資料２　（仮称）医科大学院大学が目指す方向性（基本理念・基本方針）（案） 資料３　健康長寿社会の実現に向けた（仮称）医科大学院大学の研究分野のイメージ（案） 資料４　附属病院の方向性 参考資料１　第１回準備委員会　主な意見 参考資料２　（仮称）医科大学院大学基本構想　項目（案） 参考資料３　（仮称）医科大学院大学が目指す方向性（第２回委員会資料） 参考資料４　各医科大学院の理念・目標等（第２回委員会資料） 参考資料５　（仮称）医科大学院大学準備委員会設置要綱

１　審議内容

八木健康福祉部長から資料１により「第２回準備委員会の概要」について、資料２により「(仮称）医科大学院大学が目指す方向性（基本理念・基本方針）（案)」について、資料３により「健康長寿社会の実現に向けた（仮称）医科大学院大学の研究分野のイメージ（案)」について、資料４により「附属病院の方向性」について説明した後、各委員による議論を行った。

(1) 主な意見

ア　基本理念・基本方針

・「新たな医療」の一例は、現在実際に行われている医療に新しい技術を導入し、今までにない医療を開発すること。

・「医療機関を中核とした」は、「医学部を中核とした」とすることの対極となる言葉である。

・静岡に医師を残す上では、様々な公立病院との連携が重要である。

・革新的な医薬品、医療機器、医療技術などを開発するためには多様な分野を融合した研究が必要である。

・国内のみならず海外でも学び、グローバルに活躍される人材育成を考えるべき。

イ　想定する研究分野

・医療機関は医学部・医学研究科と比較して診療科間の壁が低いので、医療機関を基盤に研究機関をつくることは非常によい。

・静岡県や医療の発展にとって重要な研究分野を選択することが必要である。

・学生目線に立った見せ方が必要。従来の専門領域から発想でき、発展できることが理解できる名称や領域設定が望ましい。

・臨床研究にとって「医療統計学」は非常に重要。社会健康医学大学院大学には統計の専門家がおり、データがあれば分析ができる。

・新型コロナを含めた「感染症」分野は、社会健康医学においても大きな分野である。

ウ　附属病院の方向性

・アメリカにある「メディカルセンター」を参考に、病院に研究機関が付いて、そこに研究者が入り、新たな医療をつくることが、医科大学院の構想になる。

・診療だけではなく、他の大学や産業界に開かれた、他機関との連携を積極的に推進する附属病院であることが重要である。

・県民の理解を得るためには、研究成果である高度な医療技術の還元などに、期待を持ってもらうことが必要である。

・静岡県には複数の県立病院があり、患者数の多さも大きな特徴になるため、附属病院は一つの病院に限定するべきでない。

(2) 第４回準備委員会の審議方針

今回までに委員から出た意見を参考に、事務局が基本構想の骨子案を作成し、次回の委員会にて審議いただくことについて、了承を得た。